

新潟青陵大学 学生の学修成果に関するアンケート調査集計結果

2024 年度

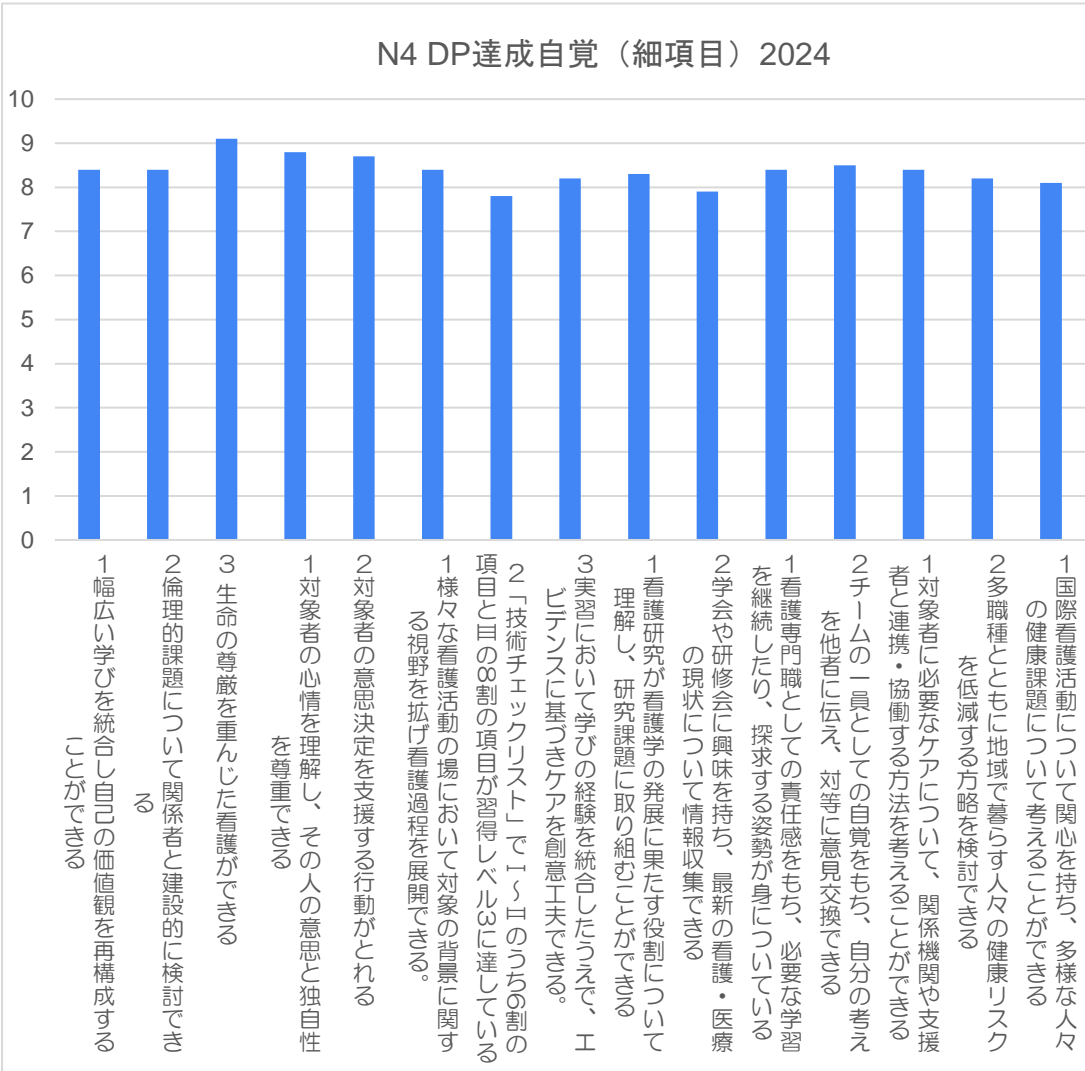
2023 年度

2022 年度

2021 年度

2024年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(看護学科4年)

アンケート実施日 2024年12月 (対象者88名、回収率 100%)



2024年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(社会福祉学科4年)

アンケート実施日 2025年2月

対象者数： 95 人
回答者数： 86 人
回 答 率： 90.5%

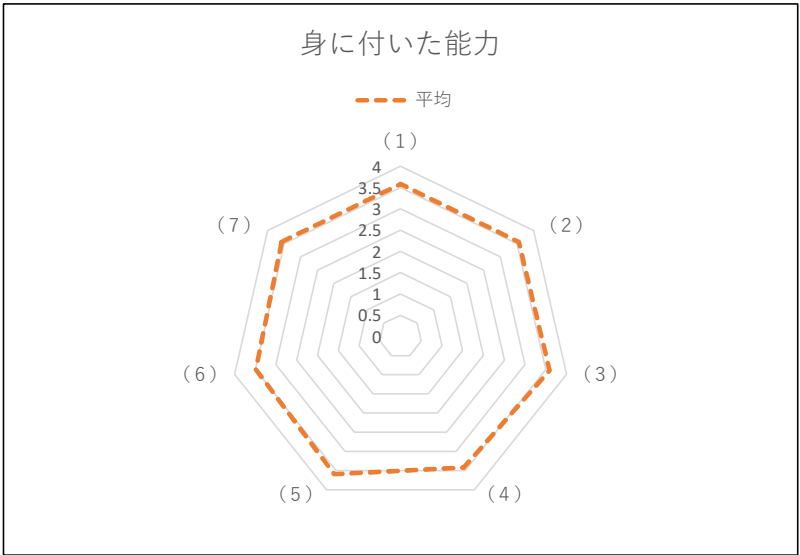
<設問1>

大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

◆身に付いた能力(自己評価:4段階評価)

- (1) 専門的知識と技能
- (2) 幅広い教養、社会常識
- (3) 社会的責任を踏まえた行動ができるようになった
- (4) 課題を発見し、解決する能力
- (5) コミュニケーション能力
- (6) 自分で判断する能力
- (7) チームワーク力

社会福祉学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	3.6	3.6	3.6	3.4	3.6	3.5	3.6



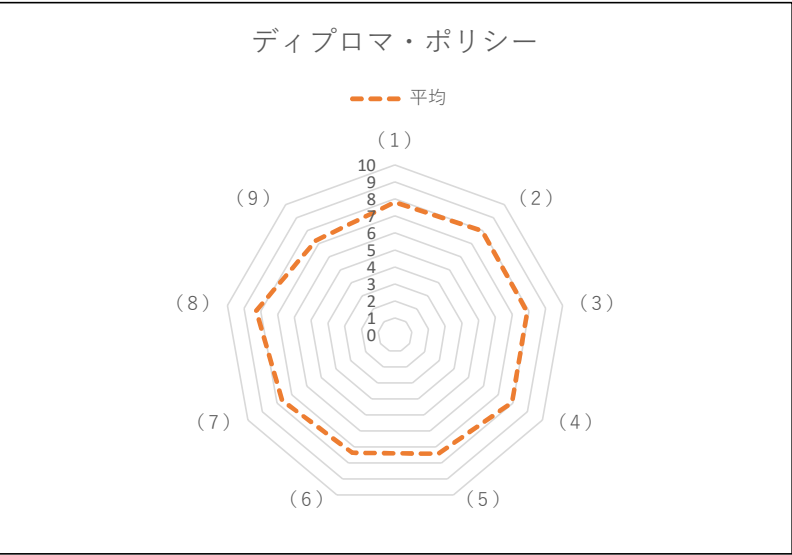
<設問2>

大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1)多様な人々の文化・歴史・価値観と社会のしくみを理解し、相互の違いを越えて協力しあうことができる。
- (2)社会の規範と倫理観を身につけ、市民としての社会的責任や役割を理解している。
- (3)人と社会に対する関心と自ら学ぶ意欲を持ち続け、社会に貢献できる。
- (4)多様な生活や人生のありようを社会環境との関係性から理解している。
- (5)生活課題を発見し、その解決に必要な情報を分析・考察できる。
- (6)生活課題の多様な解決方法を理解し、その方向性や過程を提示することができる。
- (7)専門職倫理の視点から、権利擁護の重要性を理解することができる。
- (8)コミュニケーション・スキルを活用し、他者と協調・協働していくことができる。
- (9)社会資源を把握し、それらを調整、開発、運営するための知識と技術を身につけている。

社会福祉学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
平均	7.8	8.0	7.9	7.9	7.4	7.4	7.7	8.3	7.2



2024年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(臨床心理学科4年)

アンケート実施日 2025年2月

対象者数： 57 人
回答者数： 53 人
回答率： 93.0%

<設問1>

大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

◆身に付いた能力(自己評価:4段階評価)

- (1) 専門的知識と技能
- (2) 幅広い教養、社会常識
- (3) 社会的責任を踏まえた行動ができるようになった
- (4) 課題を発見し、解決する能力
- (5) コミュニケーション能力
- (6) 自分で判断する能力
- (7) チームワーク力

<設問2>

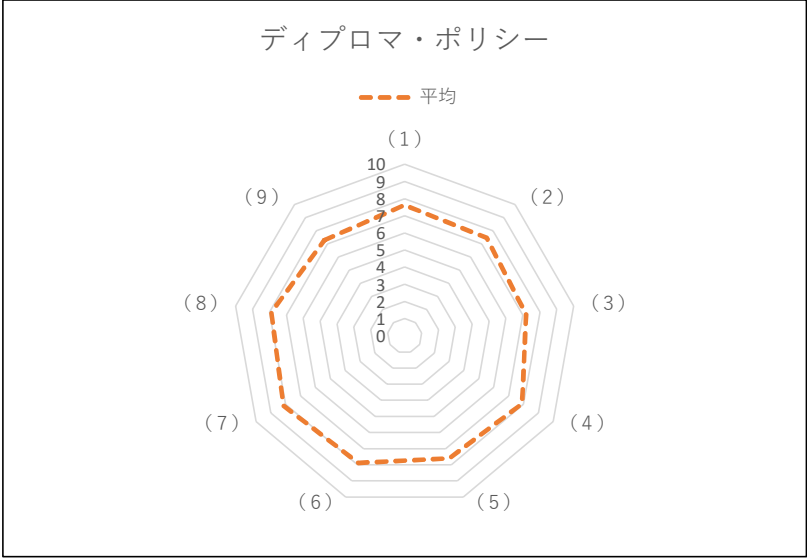
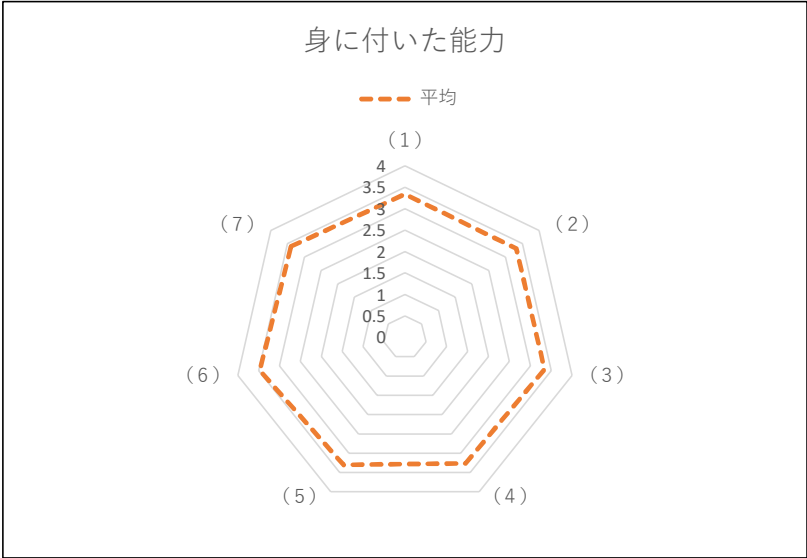
大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1)心理学と関連領域の学問的洞察力を身につけ、心のはたらきについて論理的に考えることができる。
- (2)社会における課題を発見し、心理学的な方法論を用いて目的に応じた必要な情報を適切に収集することができる。
- (3)収集した情報を心理学的観点から整理・分析し、結果を客観的に読み取り、かつ論理的に考察することができる。
- (4)臨床心理学の視点から、心の普遍性と個別性を理解し、人間と環境の相互作用について考察できる。
- (5)心理アセスメントの技法を理解し、人間の行動の意味とその個別性と多様性について考察できる。
- (6)人間の心理的特徴やその多様性を理解した上で、社会規範及び倫理に沿った判断ができる。
- (7)臨床心理学の知識に基づいて他者の立場を尊重したコミュニケーションをとることができる。
- (8)自身が所属する集団の関係性を見立て、メンバーの役割を調整し協同することができる。
- (9)臨床心理学及び関連領域の知識・技能を自ら学び続ける意欲を持ち、その専門性を社会で活かすことができる。

臨床心理学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.5	3.4

臨床心理学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
平均	7.6	7.5	7.2	7.9	7.6	7.9	8.2	7.9	7.3



2023年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(看護学科4年)

アンケート実施日 2024年2月

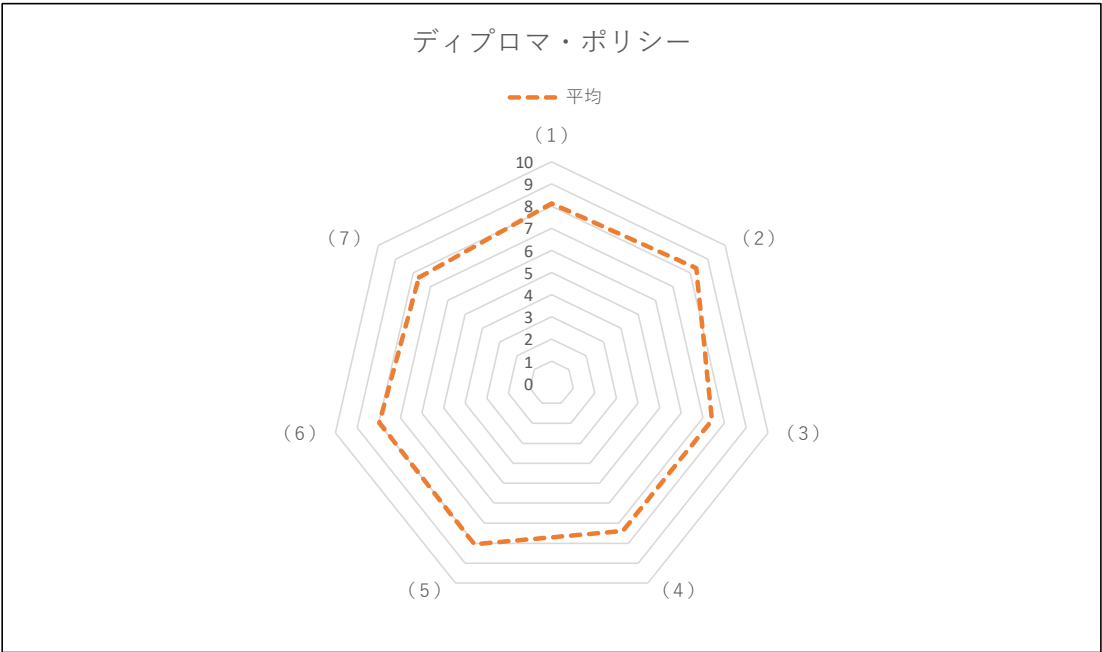
対象者数：90名
回答者数：88名
回答率：97.8%

大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1) 幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理感をもち、生命の尊厳を重んじた看護ができる。
- (2) 看護を必要としている人の心に寄り添い、一人ひとりの意思と独自性を尊重できる。
- (3) 専門的知識と技術を修得し、エビデンスに基づいた基礎的看護を実践する能力を身に付けている。
- (4) 看護・医療の進歩と変化に適切に対応できる能力を身に付けている。
- (5) 専門職者として主体的に学習する能力を身に付けている。
- (6) 保健・医療・福祉・教育等関連領域と連携・協働し、地域の人々の健康課題に取り組むことができる。
- (7) 多様な文化と相互の違いを理解し、国際的感覚を高め、人々の健康課題を考えることができる。

看護学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	8.1	8.3	7.4	7.4	8.1	8.0	7.7



2023年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(社会福祉学科4年)

アンケート実施日 2024年2月

対象者数：98名
回答者数：88名
回答率：89.8%

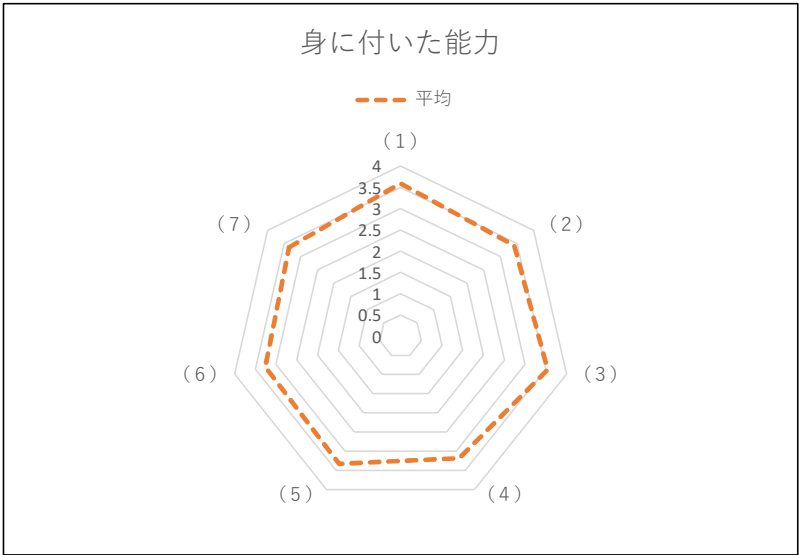
＜設問1＞

大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

◆身に付いた能力(自己評価:4段階評価)

- (1) 専門的知識と技能
- (2) 幅広い教養、社会常識
- (3) 社会的責任を踏まえた行動ができるようになった
- (4) 課題を発見し、解決する能力
- (5) コミュニケーション能力
- (6) 自分で判断する能力
- (7) チームワーク力

社会福祉学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	3.6	3.4	3.5	3.2	3.3	3.3	3.4



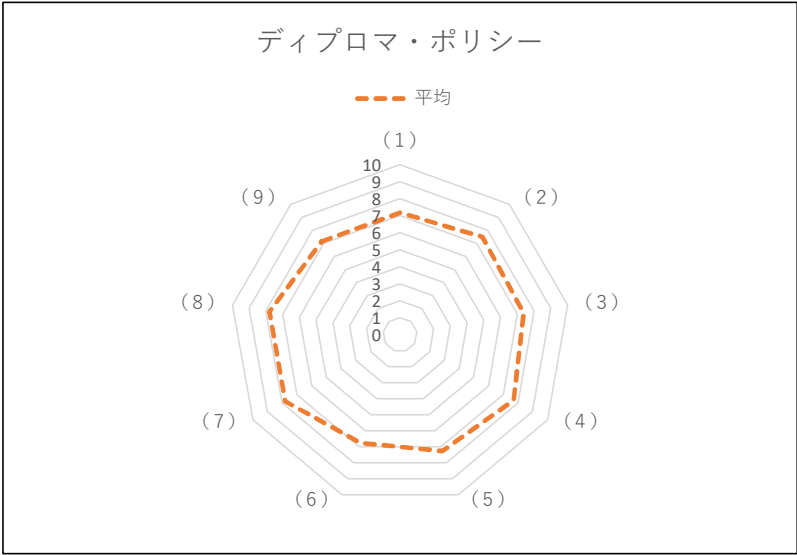
＜設問2＞

大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1)多様な人々の文化・歴史・価値観と社会のしくみを理解し、相互の違いを越えて協力しあうことができる。
- (2)社会の規範と倫理観を身につけ、市民としての社会的責任や役割を理解している。
- (3)人と社会に対する関心と自ら学ぶ意欲を持ち続け、社会に貢献できる。
- (4)多様な生活や人生のありようを社会環境との関係性から理解している。
- (5)生活課題を発見し、その解決に必要な情報を分析・考察できる。
- (6)生活課題の多様な解決方法を理解し、その方向性や過程を提示することができる。
- (7)専門職倫理の視点から、権利擁護の重要性を理解することができる。
- (8)コミュニケーション・スキルを活用し、他者と協調・協働していくことができる。
- (9)社会資源を把握し、それらを調整、開発、運営するための知識と技術を身につけている。

社会福祉学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
平均	7.2	7.5	7.4	7.7	7.3	6.8	7.8	7.8	7.2



2023年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(臨床心理学科4年)

アンケート実施日 2024年2月

対象者数：55名
回答者数：50名
回答率：90.9%

<設問1>

大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

◆身に付いた能力(自己評価:4段階評価)

- (1) 専門的知識と技能
- (2) 幅広い教養、社会常識
- (3) 社会的責任を踏まえた行動ができるようになった
- (4) 課題を発見し、解決する能力
- (5) コミュニケーション能力
- (6) 自分で判断する能力
- (7) チームワーク力

<設問2>

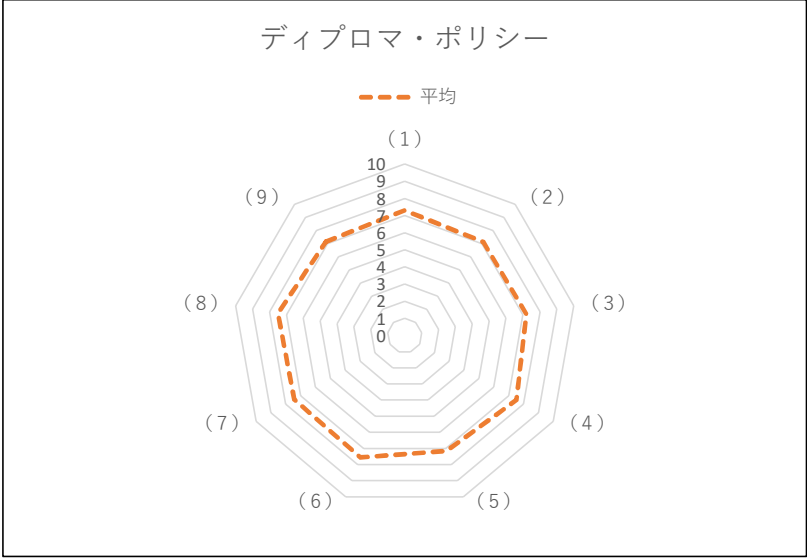
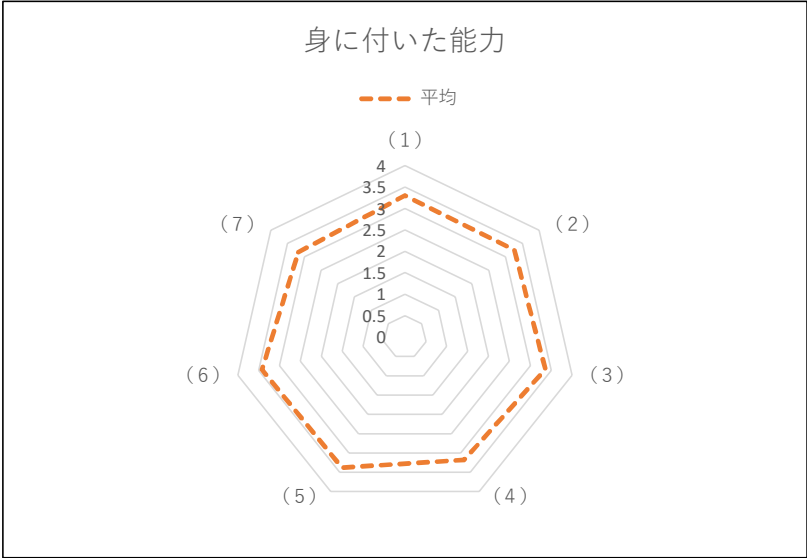
大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1)心理学と関連領域の学問的洞察力を身につけ、心のはたらきについて論理的に考えることができる。
- (2)社会における課題を発見し、心理学的な方法論を用いて目的に応じた必要な情報を適切に収集することができる。
- (3)収集した情報を心理学的観点から整理・分析し、結果を客観的に読み取り、かつ論理的に考察することができる。
- (4)臨床心理学の視点から、心の普遍性と個別性を理解し、人間と環境の相互作用について考察できる。
- (5)心理アセスメントの技法を理解し、人間の行動の意味とその個別性と多様性について考察できる。
- (6)人間の心理的特徴やその多様性を理解した上で、社会規範及び倫理に沿った判断ができる。
- (7)臨床心理学の知識に基づいて他者の立場を尊重したコミュニケーションをとることができる。
- (8)自身が所属する集団の関係性を見立て、メンバーの役割を調整し協同することができる。
- (9)臨床心理学及び関連領域の知識・技能を自ら学び続ける意欲を持ち、その専門性を社会で活かすことができる。

臨床心理学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	3.3	3.3	3.4	3.2	3.4	3.4	3.2

臨床心理学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
平均	7.3	7.1	7.2	7.5	7.2	7.6	7.4	7.5	7.1



2022年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(看護学科4年)

アンケート実施日 2023年2月

対象者数：91名

回答者数：86名

回答率：94.5%

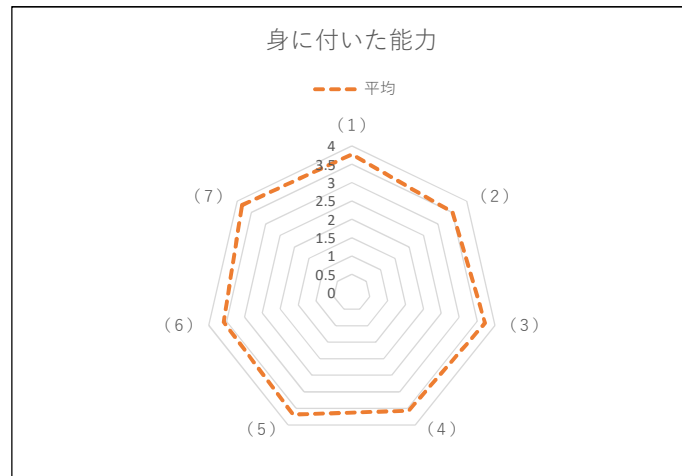
＜設問1＞

大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

◆身に付いた能力(自己評価:4段階評価)

- (1) 専門的知識と技能
- (2) 幅広い教養、社会常識
- (3) 社会的責任を踏まえた行動ができるようになった
- (4) 課題を発見し、解決する能力
- (5) コミュニケーション能力
- (6) 自分で判断する能力
- (7) チームワーク力

看護学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	3.8	3.5	3.7	3.6	3.7	3.6	3.8



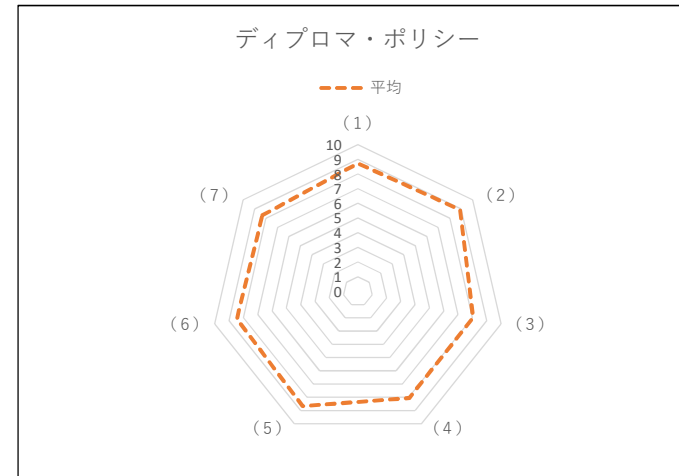
＜設問2＞

大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1) 幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理感をもち、生命の尊厳を重んじた看護ができる。
- (2) 看護を必要としている人の心に寄り添い、一人ひとりの意思と独自性を尊重できる。
- (3) 専門的知識と技術を修得し、エビデンスに基づいた基礎的看護を実践する能力を身に付けている。
- (4) 看護・医療の進歩と変化に適切に対応できる能力を身に付けている。
- (5) 専門職者として主体的に学習する能力を身に付けている。
- (6) 保健・医療・福祉・教育等関連領域と連携・協働し、地域の人々の健康課題に取り組むことができる。
- (7) 多様な文化と相互の違いを理解し、国際的感覚を高め、人々の健康課題を考えることができる。

看護学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	8.7	8.9	8.0	8.1	8.7	8.5	8.3



2022年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(社会福祉学科4年)

アンケート実施日 2023年2月

対象者数：98名

回答者数：91名

回答率：92.8%

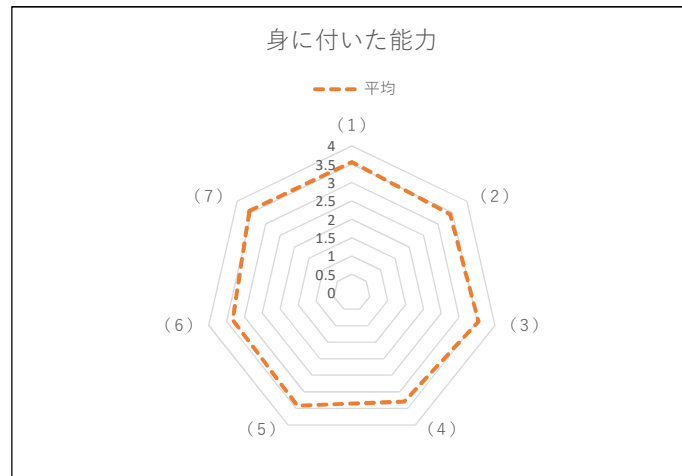
＜設問1＞

大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

◆身に付いた能力(自己評価:4段階評価)

- (1) 専門的知識と技能
- (2) 幅広い教養、社会常識
- (3) 社会的責任を踏まえた行動ができるようになった
- (4) 課題を発見し、解決する能力
- (5) コミュニケーション能力
- (6) 自分で判断する能力
- (7) チームワーク力

社会福祉学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	3.6	3.4	3.5	3.3	3.4	3.3	3.6



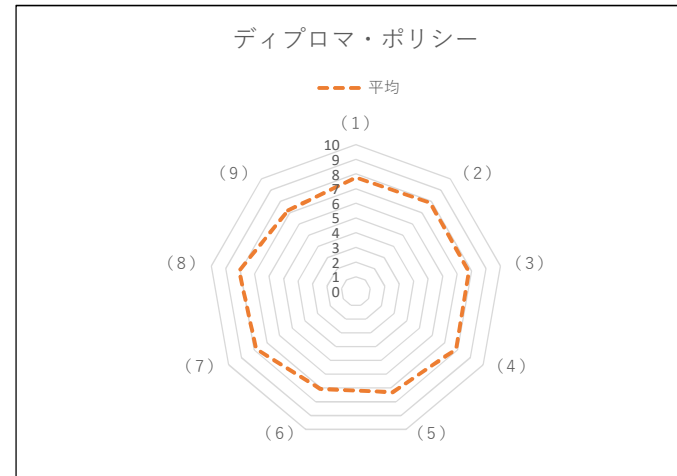
＜設問2＞

大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1) 多様な人々の文化・歴史・価値観と社会のしくみを理解し、相互の違いを越えて協力しあうことができる。
- (2) 社会の規範と倫理観を身につけ、市民としての社会的責任や役割を理解している。
- (3) 人と社会に対する関心と自ら学ぶ意欲を持ち続け、社会に貢献できる。
- (4) 多様な生活や人生のありようを社会環境との関係性から理解している。
- (5) 生活課題を発見し、その解決に必要な情報を分析・考察できる。
- (6) 生活課題の多様な解決方法を理解し、その方向性や過程を提示することができる。
- (7) 専門職倫理の視点から、権利擁護の重要性を理解することができる。
- (8) コミュニケーション・スキルを活用し、他者と協調・協働していくことができる。
- (9) 社会資源を把握し、それらを調整、開発、運営するための知識と技術を身につけている。

社会福祉学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
平均	7.8	7.9	7.8	7.9	7.3	7.1	7.8	8.1	7.2



2022年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(臨床心理学科4年)

アンケート実施日 2023年2月

対象者数：52名
回答者数：52名
回答率：100%

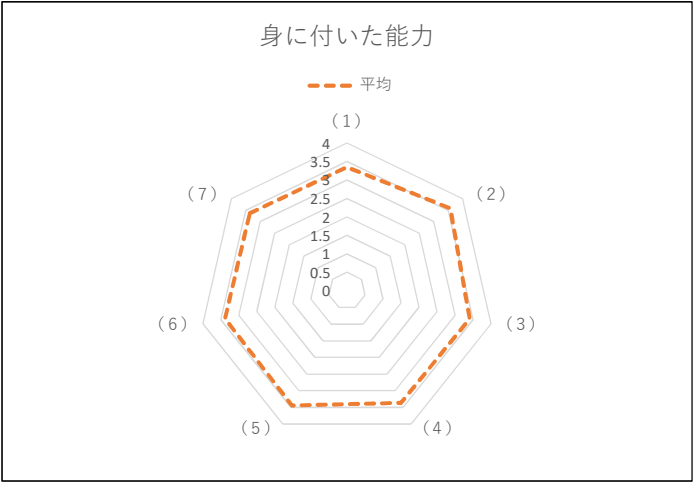
＜設問1＞

大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

◆身に付いた能力(自己評価:4段階評価)

- (1) 専門的知識と技能
- (2) 幅広い教養、社会常識
- (3) 社会的責任を踏まえた行動ができるようになった
- (4) 課題を発見し、解決する能力
- (5) コミュニケーション能力
- (6) 自分で判断する能力
- (7) チームワーク力

臨床心理学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	3.3	3.6	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4



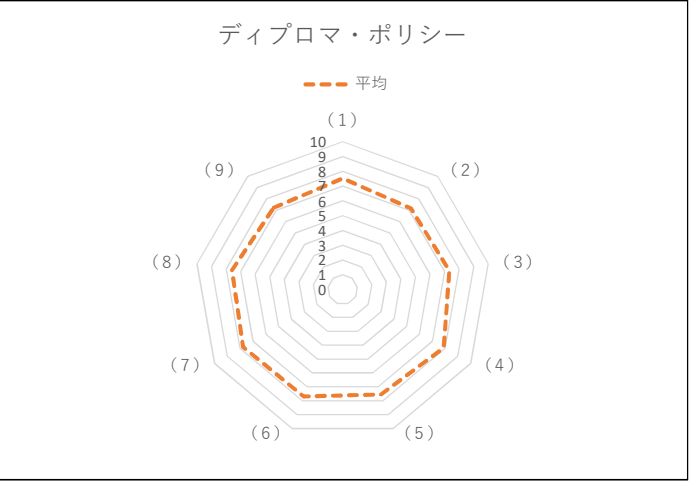
＜設問2＞

大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1)心理学と関連領域の学問的洞察力を身につけ、心のはたらきについて論理的に考えることができる。
- (2)社会における課題を発見し、心理学的な方法論を用いて目的に応じた必要な情報を適切に収集することができる。
- (3)収集した情報を心理学的観点から整理・分析し、結果を客観的に読み取り、かつ論理的に考察することができる。
- (4)臨床心理学の視点から、心の普遍性と個性を理解し、人間と環境の相互作用について考察できる。
- (5)心理アセスメントの技法を理解し、人間の行動の意味とその個性性と多様性について考察できる。
- (6)人間の心理的特徴やその多様性を理解した上で、社会規範及び倫理に沿った判断ができる。
- (7)臨床心理学の知識に基づいて他者の立場を尊重したコミュニケーションをとることができる。
- (8)自身が所属する集団の関係性を見立て、メンバーの役割を調整し協同することができる。
- (9)臨床心理学及び関連領域の知識・技能を自ら学び続ける意欲を持ち、その専門性を社会で活かすことができる。

臨床心理学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
平均	7.5	7.2	7.3	7.9	7.6	7.7	7.8	7.6	7.2



2021年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(看護学科4年)

アンケート実施日 2022年2月

対象者数：87名

回答者数：87名

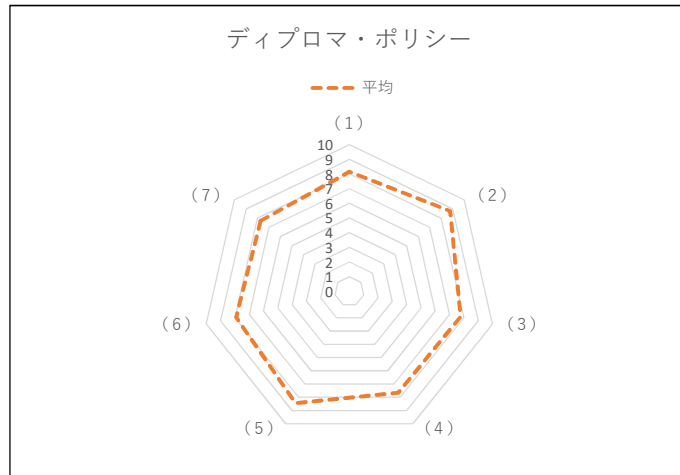
回答率：100%

大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1) 幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理感をもち、生命の尊厳を重んじた看護ができる。
- (2) 看護を必要としている人の心に寄り添い、一人ひとりの意思と独自性を尊重できる。
- (3) 専門的知識と技術を修得し、エビデンスに基づいた基礎的看護を実践する能力を身に付けている。
- (4) 看護・医療の進歩と変化に適切に対応できる能力を身に付けている。
- (5) 専門職者として主体的に学習する能力を身に付けている。
- (6) 保健・医療・福祉・教育等関連領域と連携・協働し、地域の人々の健康課題に取り組むことができる。
- (7) 多様な文化と相互の違いを理解し、国際的感覚を高め、人々の健康課題を考えることができる。

看護学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
平均	8.1	8.8	7.8	7.7	8.4	7.9	7.7



2021年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(社会福祉学科4年)

アンケート実施日 2022年2月

対象者数：95名

回答者数：82名

回答率：86.3%

<設問2>

大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

(1)多様な人々の文化・歴史・価値観と社会のしくみを理解し、

相互の違いを越えて協力しあうことができる。

(2)社会の規範と倫理観を身につけ、市民としての社会的責任や役割を理解している。

(3)人と社会に対する関心と自ら学ぶ意欲を持ち続け、社会に貢献できる。

(4)多様な生活や人生のありようを社会環境との関係性から理解している。

(5)生活課題を発見し、その解決に必要な情報を分析・考察できる。

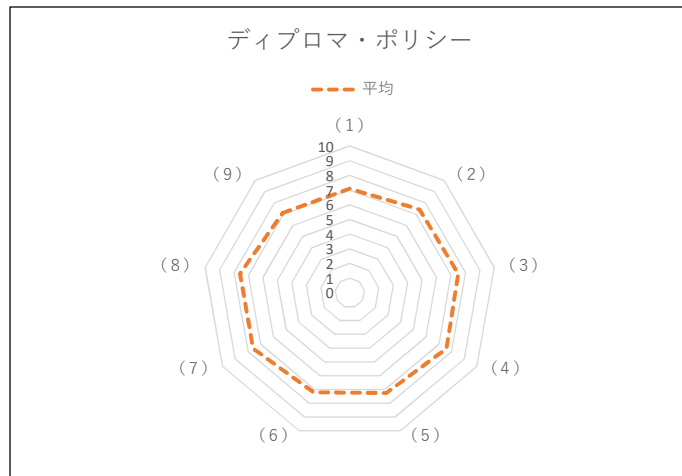
(6)生活課題の多様な解決方法を理解し、その方向性や過程を提示することができる。

(7)専門職倫理の視点から、権利擁護の重要性を理解することができる。

(8)コミュニケーション・スキルを活用し、他者と協調・協働していくことができる。

(9)社会資源を把握し、それらを調整、開発、運営するための知識と技術を身につけている。

社会福祉学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
平均	7.1	7.4	7.5	7.6	7.3	7.2	7.6	7.6	7.1



2021年度 学生の学修成果に関するアンケート調査結果(臨床心理学科4年)

アンケート実施日 2022年2月

対象者数：53名

回答者数：45名

回答率：84.9%

<設問2>

大学での授業や活動を通して、ディプロマ・ポリシーはどの程度達成できましたか。

◆ディプロマ・ポリシー(自己評価:10段階評価)

- (1)心理学と関連領域の学問的洞察力を身につけ、心のはたらきについて論理的に考えることができる。
- (2)社会における課題を発見し、心理学的な方法論を用いて目的に応じた必要な情報を適切に収集することができる。
- (3)収集した情報を心理学的観点から整理・分析し、結果を客観的に読み取り、かつ論理的に考察することができる。
- (4)臨床心理学の視点から、心の普遍性と個性を理解し、人間と環境の相互作用について考察できる。
- (5)心理アセスメントの技法を理解し、人間の行動の意味とその個性と多様性について考察できる。
- (6)人間の心理的特徴やその多様性を理解した上で、社会規範及び倫理に沿った判断ができる。
- (7)臨床心理学の知識に基づいて他者の立場を尊重したコミュニケーションをとることができる。
- (8)自身が所属する集団の関係性を見立て、メンバーの役割を調整し協同することができる。
- (9)臨床心理学及び関連領域の知識・技能を自ら学び続ける意欲を持ち、その専門性を社会で活かすことができる。

臨床心理学科	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
平均	7.2	6.9	7.1	7.4	7.2	7.4	7.9	7.5	7.1

